

### 市制10周年を来年迎えるにあたっての取り組みは

**市長** ▶ マスコットキャラクターを発表したい

**坂本** イメージキャラクターを公募する方針だが、その活用方法は

**市長** 12月にマスコットキャラクターの公募を行い、市制10周年の来年には発表したい。活用方法は、着ぐるみを作製し、各種イベントやオリジナルグッズとしての商品化も検討し、市の知名度の向上と一体感の醸成に努めていく。



■ 颯新クラブ  
坂本 一之 議員

**坂本** キャラクターを募集するだけにはとどまらず、活用方法まで公募の対象にして、審査対象にして決めたらどうか。

**企画政策部長** 募集要項に取り入れて進めていく。

**坂本** 竜王駅の活性化の現状と今後の方針はどうか。

**市長** 竜王駅魅力発信協議会を設置し、竜王駅を観光やイベントの拠点として位置づけ、駅のにぎわいづくりを行ってきた。今後は、官民の連携により、地域の活性化を目指していきたい。

**坂本** 竜王駅北口の民有地を購入または借地して何かしようとする考えはあるのか。

**建設産業部長** 民間開発の話も来ていないので今後の課題とする。



竜王駅の山県大式除幕式で合唱する園児たち

### 定住人口を増やす施策は

**市長** ▶ 総合的なまちづくり施策を進めていく

**坂本** 定住する要件には、子育て、教育、土地利用のバランスが大事であるが、市の定住人口を増やす施策にはどのようなものがあるか。

**市長** 今後の高齢化社会を見据えた、高齢者が安心して暮らせる生活環境の充実や子育て環境の充実など、住みよさ、暮らしやすさの実感できる施策が中心となる。

**坂本** 中学3年生までの入院医療費の無料化ができないか。

**福祉健康部長** 中学生の医療費無料化に掛かる経費は、約5,300万円です、そのうち入院費は300万円と試算している。来年度策定する子ども子育て支援事業計画において検討していく。

**坂本** 二世帯、三世帯と住み続ける場合は優遇制度などの支援策があってもよいのではないか。

**市長** 税の優遇制度の導入については、公平性の観点から適正でないと考えている。

**坂本** 暮らすにはとてもよいところだということ強くアピールするような施策を進めることに特化し、新居を本市に構える方々への助成制度があってもいいのではないか。

**企画政策部長** 定住促進策についての補助金も今後の課題とする。

### 行政のチェックは広い意見を求めてもよいのでは

**市長** ▶ 既存の組織を有効活用しよう

**坂本** 事業評価の役割や機能は、行政のチェック機能を有する議会が担っているとして、評価は議会が下すべきとしている。議員は市民の代表であるが、幅広い意見を求めてはどうか。

**市長** 市では、行政改革推進委員会を組織活用し、平成24年度から市民温泉施設のあり方について広く意見を求めた。行政評価による効率性の徹底をより一層期するため、今後も既存の組織を有効に活用していく。

**坂本** 事業評価について、委員会を通して市当局の評価と議員側の評価をぶつけて、対峙してはどうか。

**企画政策部長** 行政評価は恣意的でなく、客観的な成果指標を設定している。行政評価の毎年度の実施により、事業の課題や問題点を拾い出して、引き続き効率的な行政執行に努めていく。

### 学力アップの具体的な施策は

**教育長** ▶ 教師の指導力の向上や言語活動の充実により学力向上を図っていく

**坂本** 保護者は学校の生徒のレベルがどれくらいに位置しているか客観的に知りたいと思うが、学力アップの具体的な施策は何か。

**教育長** 「学力アップは教師の指導力の向上から」という考えのもと、昨年度から授業力向上の研修会を開催している。また、「学力」のキーワードである「言語活動の充実」をテーマに研究指定校を設け、研究および実践をするとともに、公開研究会を開催し、その成果を普及させ市全体の学力向上を図っている。

**坂本** 全国学力学習テストの結果が公表されたが、市のレベルはどうか。

**教育部長** 小学生は、国語、算数とも県の数値を上回っている。中学生は、国語、算数とも県の数値をやや下回っている。

**坂本** 英語ができることと話せることは違う。ALTの先生がいて、生の英語が聞けるので、放課後などに中学生や小学5、6年生に英会話教室などを開いたらどうか。

**教育部長** 夏期休暇中等を利用して実施することは可能であると考えている。中学校側と日程調整が必要となるので、今後実施の可能性について検討していく。

**坂本** 寺子屋方式の学習の場について、退職した教員OBにお願いして自主講座を検討したらどうか。

**教育部長** 教員専門職として経験豊かな退職教員の潜在的な人材の数を調査して、検討していく。

**坂本** 中1ギャップとならないよう小学校の高学年の基礎学力アップが必要ではないか。

**教育部長** 中1ギャップによる不登校の未然防止を図っていくうえでも、小学校高学年段階での基礎学力を定着させることは大切である。



ALTによる授業の様子